

キャラクター名  
枢星 枢 (すうせい くるる)

プレイヤー名

シンドローム	ハヌマーン		ワークス	UGNエージェントC	カヴァー	高校生
	ハヌマーン					
オプション			年齢	17歳	性別	女
覚醒	感染	衝動	嫌悪	初期侵食率	29 %	
出自	待ち望まれた子	経験	大失敗	邂逅	腐れ縁	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	30
肉体	2	0	0			2	行動値	10
感覚	2	0	0			2	(非装備時)	10
精神	2	1	3			6	戦闘移動	15
社会	2	0	0			2	全力移動	30

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	6		交渉		
回避			知覚			意志	1	1	調達	3	
運転:			芸術:			知識:心理学	2		情報:UGNコネ修正込み	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
▼無影の花畑	RC	6r+6		21		コンボ100%未満。ドッジ不可。装甲無視。邪毒ランク5付与。シガ5回まで
	RC	6r+6		24		コンボ100%以上。ドッジ不可。装甲無視。邪毒ランク6付与。シガ6回まで

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
【レネグイド関連】	
コネ: UNG幹部	
情報収集チーム	
思い出の一品	
【日用品】	
携帯電話	
水晶玉 (アクセサリ)	

合計装甲: 0    合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
Dロイス:複製体	P	N		
オリジナル	P 慕情	N 憎悪		
春日恭二	P 憧憬	N 猜疑心		
傘樹志帆	P 尊敬	N 隔意		
朝日真香	P 有為	N 残念		
朝日望	P 連帯感	N 嫌気		
織姫アナザー	P 同情	N 憐憫		

最大財産P: 10    残り財産P: 5

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
サイレンの魔女	7	5	Xジャー	視界	シーン選	RC	—	
効果: Lv×3の射攻。装甲無視								
疾風迅雷	5	3	Xジャー	—	—	SD	ピュア	
効果: シガLv回まで。ドッジ不可								
蝕む赤	5	3	Xジャー	視界	—	RC	Dロイス	
効果: 命中時Lvランクの邪毒を付与								
波紋の方陣	7	3	オート	視界	単体	自動	80↑	
効果: シガLv1回、ダメージをLv+1D軽減								
蝙蝠の耳	★	—	Xジャー	至近	自身	自動	—	
効果: 卓越した聴覚を得る								
空の楽器	★	—	Xジャー	視界	効参	自動	—	
効果: 大気を音源に、自在に奏でる								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【プロフィール】  
 古い師を自称し、水晶玉を常に携帯する変人女子高生。放課後などに空いた時間に、運よくベッドに腰かけ本を読む彼女に遭遇できれば、確度の高い占いをしてもらえると噂である。  
 身体が弱いため私服で保健室登校をしているとの建前だが、実際はエージェントとして遅刻早退欠席を繰り返す学生生活を誤魔化すための方便。出不精な運動嫌いではあるものの、健康状態は良好そのもの。  
 本人は堅苦しい制服を着なくて済んだり、体育の授業を見学する口実にできたりと、小規模な悪用を満喫している。

人と接するよりも本を読む方が好きな性質であり、営業中も人当たりがよいとは言えない態度。しかし生真面目な性格をしており、信頼がおけると顧客からの評価は意外と良好。一部からは、あの態度がいいんじゃないかと変な受け方をすることも。  
 肝心の占い稼業ではハヌマーンシンドロームを存分に活用。超聴覚による『体音』観察と心理学の合わせ技で相手を分析して助言を送ったり、可聴領域外でリラックスさせる音楽を奏でて心を癒したりしている。超常の力を使っているわりに、実はやっていることはオカルトと無縁の、人理に基づいた心理療法に近い。  
 目的があるとはいえ趣味の範疇でやっていることなので、基本的に依頼料は取らない。ただ、謝礼を受け取らないことにこだわりがあるわけではなく、貰えるものはもらって置くタイプ。特に初めて謝礼としてもらった石のネックレスは、ゆつたりとした衣服の下に隠して常に身に付けている。

物心ついたときから、彼女の中には一つのイメージがあった。  
 ミルク色のもやの中に咲き誇る赤い花。光景としては美しいはずの、この上なく嫌悪感を掻き立てられる『それ』の正体がわからないまま日常を過ごした彼女は人間の心理に興味を抱き、臨床心理士を目指して中学時代から独自に勉強を始める。  
 しかし高校に入学した桜の季節、彼女のことをFHが作成した複製体だと言い張るオールバックにスーツを来た神経質そうな眼鏡の男、“ディアボロス”春日恭二が目の前に現れたことで彼女の人生は大きく変貌を遂げる。  
 正直、あのときに不審者だと大声を出して逃げた方がいいと思ったことが無いといえは嘘になる。だが当時の彼女は自身の正体を知りたいと無意識下に強く願っていたし、だから仮に時を越えて同じ場面に戻れたとしても、やはり同じ選択を繰り返してここにたどり着くことになるだろう。  
 ちなみにその時から春日恭二とは腐れ縁の関係。